

体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

平成26年度宮城県防災キャンプ推進事業

宮城県

【事業のポイント】

今後も発生が予想される自然災害を想定し、防災について体験的に学ぶ防災キャンプの事業を市町村自治体が主導し実施すること、また先の震災時における避難所運営のあり方を本事業を通じて検証することは、災害に対して主体的に対応しようとする青少年の育成と併せ、その地域に即した自然災害に対する対応力を強化するものであることから、今年度は、沿岸地域の3市町にキャンプ事業を再委託して実施することとした。



ダンボールを活用した寝床作り(気仙沼市)

1. 企画

(1) 事業実施の背景

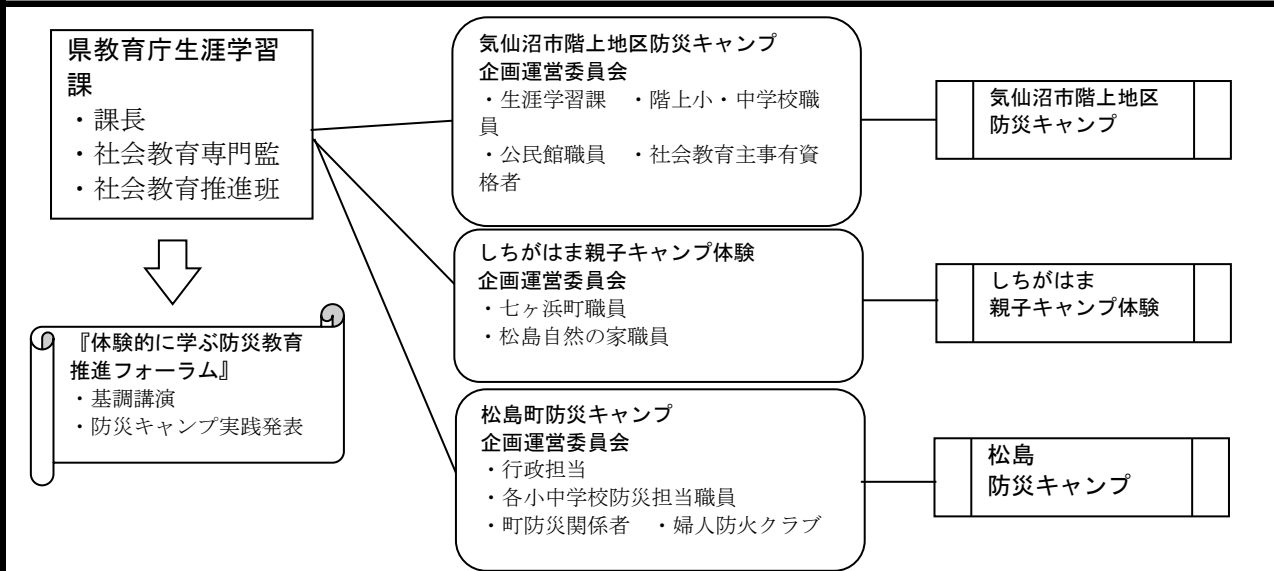
震災から4年目を迎え、県内被災地においても、復興に向けた動きと併せて、次代を担う青少年に対して継続的に防災教育を実施していくことは、その地域における防災力の強化という観点から重要課題の一つと考えられることから、震災の教訓をもとにした防災教育の観点に立った体験活動(避難生活型の防災キャンプ)の普及・推進を通して、非常時においても主体的に対応しようとする青少年の育成と地域防災力の基盤となるコミュニティの醸成を図ろうとするものである。

(2) ねらい

過去2か年の取組の成果とノウハウを生かし、災害時、避難所の運営主体となる市町村に事業を再委託し、各地域の実状に応じた体験的な防災教育プログラムを実践することにより、地域において想定される自然災害に対する対応力を強化するとともに、県内市町村における防災力強化のためのモデル実践として普及・啓発を図る。

2. 事業概要

(1) 運営体制



(2) 開催実績

【気仙沼市】

月 日	内 容
5月 7日(水)	階上地区防災キャンプに伴う企画運営委員会準備会(事業実施要領, 企画運営委員会設置要綱等)
5月29日(木)	階上地区防災キャンプに伴う第1回企画運営委員会(事業説明, 事業実施計画, プログラム等)
7月 3日(木)	階上地区防災キャンプに伴う第2回企画運営委員会(実施計画, プログラム最終確認, 依頼先確認等)
7月31日(木)	階上地区防災キャンプ1日目
8月 1日(金)	階上地区防災キャンプ2日目
12月 4日(木)	階上地区防災キャンプに伴う第3回企画運営委員会(活動のまとめ, フォーラム準備)

【松島町】

月 日	内 容
6月19日(木)	松島防災キャンプ実施への説明・協力要請(各小中学校及び各団体)
6月26日(木)	企画運営委員会発足
7月 4日(金)	第1回企画運営委員会(実施計画の検討と役割分担, 依頼者の確認, 募集要項の検討)
7月 9日(水)	募集要項配付(各小中学校)
7月23日(水)	第2回企画運営委員会(実施に向けての最終確認, 人数確定, 実施要項細案)
8月 1日(金)	松島防災キャンプ1日目
8月 2日(土)	松島防災キャンプ2日目
11月28日(金)	第3回企画運営委員会(活動のまとめ, 県フォーラムに向けての準備, 次年度に向けて)

【七ヶ浜町】

月 日	内 容
7月 3日(木)	第1回企画運営委員会
8月 6日(水)	第2回企画運営委員会
9月13日(土)	しちがはま親子キャンプ体験1日目
9月14日(日)	しちがはま親子キャンプ体験2日目
10月24日(金)	第3回企画運営委員会

3. 防災キャンプ実施概要

【実践1・気仙沼市】

【階上地区防災キャンプ】

○参加者80人(小学校児童33人, 中学校生徒26人, 保護者21人)

○講師・役員・スタッフ・ボランティア(消防団員20人, 役員・ボランティア26人, 消防署職員11人, 志津川自然の家職員3人, 管内社会教育推進指導員8人, 社会教育指導員1人, NPOシーズアジア1人)

防災キャンプ実施地区である階上の公民館職員, 階上小中学校長と生涯学習課職員で準備会を発足し地域関係者らを加えた企画運営委員会を組織。3回の委員会を開催して本キャンプ事業を推進した。

実施にあたっては, 以下の方々から講師や協力員としてご協力をいただいた。

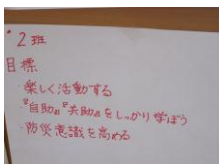
- (1)南三陸教育事務所管内社会教育推進指導員・・・グループワークづくりプログラム提供・講師
- (2)気仙沼市危機管理課職員・・・サバメシづくり講師
- (3)階上婦人会関係者・・・非常食を活用した炊き出し訓練協力
- (4)気仙沼消防署職員・・・防災キャンプ消防クラブ活動講師
- (5)階上消防分団員・・・火起こし体験・バケツリレー訓練協力
- (6)NPOシーズアジア職員・・・夜間オリエンテーリング講師
- (7)小・中PTA役員・・・夜間オリエンテーリング、寝床づくり協力
- (8)志津川自然の家職員・・・ロープワーク講師

【1日目】

小学校は、6年生が学年PTA行事のため登校(児童のみ)し, 中学校は部活動のため2年生が登校中に訓練地震発生。訓練大津波警報発令に伴い, 指定避難所である階上中学校(体育館)に避難開始。階上中学校の訓練避難所開設に伴い訓練避難者名簿を作成後, 企画運営委員の指導により防災キャンププログラム実施。社会教育推進指導員のプログラムによるグループワークによる小・中学生の絆づくりから始まり, ライフライン停止を想定して空き缶と牛乳パックを利用したサバメシづくり炊飯体験をした。午後は, 自主消防クラブを組織し, 規律訓練, 放水訓練, 搬送訓練活動を体験した。その後, 簡易かまどを作り, 火起こし体験を実施。起こした火床を消防クラブ活動で学んだバケツリレーによって消火した。夜は, 防災クイズを交えた夜間オリエンテーリングを実施し, 災害時の行動についてグループ内で意見交換しながら活動した。寝床づくりでは, ダンボール等限られた材料を使って挑戦し, 災害時に備えた対応で体育館にて就寝。

【2日目】

起床後、災害発生時の情報収集活動として中学校裏山から地域の様子を眺めた後, 学校周辺の様子を散策した。最終プログラムは, 日常生活や災害時に役立つロープの結び方について志津川自然の家職員から教えていただいた。その後, 防災キャンプのまとめとしてアンケート(感想等)を書いてもらい終了した。



目標設定



空き缶飯



搬送法



バケツリレー消火訓練



火起こし体験

(1) 普及啓発の実施概要

①防災キャンプ実施前

・防災キャンプ開催について学校を通じて周知。

②防災キャンプ実施後

・市広報の表紙に写真掲載して周知。 ・「防災キャンプのまとめ」として感想文集作成(小学校)

(2) 成果と課題

(1) 事業成果

○階上小・中学校区で実施したことにより、子ども達が、自分の住む地域での災害を想定して訓練に臨み、災害時の避難の仕方や避難所での生活について学ぶことができた。

○避難所体験プログラムの実施にあたり、階上地区の各団体関係者(PTA関係者、消防分団、階上公民館職員等)や消防署、NPO法人など外部団体と協力したことで、防災教育の幅を広げて活動することができた。また、常日頃から地域ぐるみで連携した防災・減災教育への取り組みが大切であり、共助、公助につながることを確認できた。

○子ども達は、サバメシづくりや火起こし体験、寝床づくり体験を通して、実際に缶切りを使ったり、マッチを擦って薪で火を起こしたり、ダンボールを組み立てたりすることにより「知っている」から「使える」「できる」に近づくことができた。

【参加者の感想】

○今回の防災キャンプで、避難所生活は暑くて、ちょっととなりの人ときまづかったです。でも、訓練じゃなくて、本当に地震や津波、火事とかがきて、避難してきてみんなで過ごす、もったきまずかったり、助け合いとかが必要なんだと思いました。

○防災キャンプをやって、逃げ道やどのような物を食べるのかが分かった。災害時にどのような物をもって逃げるのかわかったし、逃げ方も分かって安心しました。食べ物の作り方、寝床作りも分かりました。

○今回の体験で、自分が災害が起きたときにできることが多くなったと思うので、何かがあったときに周りの役に立てるようにがんばりたいと思う。

(2) 事業運営上の課題・留意点

▲プログラムの実施内容に余裕を持たせ、子ども達が自分で考え、工夫し合う時間や再度チャレンジする時間を確保できるようにしたい。

▲安全面に配慮し、天候によって臨機応変にプログラムを変更したり、活動場所を変更したりできるようにしたい。

▲共通理解を図って、事業を円滑に運営するためにも、指導者、実技講師、ボランティア等スタッフによる打合せの時間を設けるようにしたい。

(3) その他

【実践2・松島町】

【松島防災キャンプ】

○参加者：19人(小学生18人・中学生1人)

○スタッフ：7人(松島町教育委員会教育課長及び生涯学習班4人、松島町立小中学校主幹教諭2人)

○協力いただいたみなさま

①松島消防署(7人)

②松島町婦人防火クラブ(6人)

③松島島巡り遊覧船企業組合

④語り部(1人)

⑤松島町総務課環境防災班(2人)

【1日目】

【講話：『東日本大震災から学ぶ』講師：松島町教育委員会教育課長】

・震災当時の町の様子や対応について、写真資料をもとに「みんなだったらどうする。」と語りかけながら講話が進んだ。



【昼食：『非常食体験』協力：松島町立小中学校主幹教諭(防災担当)】

・アルファ米、カンパン。簡易コンロの使用についても一人一人体験する。



【観察：『遊覧船から松島湾の地形を体感する』協力：松島島巡り遊覧船企業組合】

・震災当時の海の様子。松島湾の地形について隔々まで体感することができました。「船でも地震は分かるでしょうか？」



【体験：『災害時の対応訓練』講師：松島消防署長・協力：松島消防署員のみなさん】

・担架運搬体験、応急処置(救急救命法・AED体験)グループごとに実施する。



【演習：『ミニランタンをつくろう』講師：松島消防署長・協力：松島消防署員のみなさん】

・災害時につかえるミニランタンをつくる。家庭にあるものを使ってミニランタンができることを体験する。



【講話：『語り部の話を聞こう』講師：片倉 誠之助 氏】

・震災当時、小学校長としての避難行動や日ごろから気をつけること、地域を知ることの大切さについてお話を聞く。



【『炊き出し体験』協力：松島町婦人防火クラブのみなさん】

・震災当時の様子やおにぎりを均等につくる方法などを聞きながら体験する。



【『171体験(災害用伝言ダイヤル)』協力：松島町教育委員会教育課生涯学習班】

・災害用伝言ダイヤルに録音し、再生してみることをとおして、実際に活用できるように体験する。



【『停電体験』講師：松島町総務課環境防災班】

・震災当時の町の電気の状態，電気が使えない場合の対応。避難名簿への記入。衛生電話での通話体験。



2日目

【『洗面の様子』必要最小限の水で・・・】

・1日3Lの水でせいかつしてみよう。支給されたペットボトルの水で・・・



【『ラジオ体操・避難所体操』講師：松島町立小中学校主幹教諭(防災担当)】

・避難所生活では，運動不足の解消のために体操が行われていることを理解する。



【朝食：『支援物資想定』】

・中学生のリーダーも指示で，班ごとに役割を決めてスムーズに配給できました。



【まとめ：『防災クイズをつくろう』『クイズの発表』】

・防災クイズづくりをとして，体験を振り返るとともに，防災について理解を深める。



【『修了証の授与』と『引き渡し訓練』】

・教育長より全員に修了証を授与。そして，引き渡し訓練。



(1) 普及啓発の実施概要

①防災キャンプ実施前

・松島防災キャンプ開催について，小学4年生から中学校3年生まで募集要項を配付し，周知した。

②防災キャンプ実施後

・町広報に写真及び感想を掲載して周知した。

(2) 成果と課題

(1) 事業成果

【企画・運営委員会】

○松島町の各団体代表者(松島消防署長・松島町消防団長・松島町婦人防災クラブ連合会会長・松島町総務課環境防災班職員・松島町立小中学校主幹教諭及び防災担当教諭)の方々に委員として、松島防災キャンプ全般に対する意見やプログラムの協議をしていただいたことにより、より充実した活動内容で実施することができた。

【プログラムについて】

○協力いただいた団体の特性を生かした活動内容を工夫していただいたことでより体験的なプログラムとなり、スムーズに活動を行うことができた。

○松島湾の遊覧をとおして、実際に湾の地形の特徴を知ることができたと同時に本町域の津波被害が少なかったことを実感することができた。

○講話の中で、東日本大震災時の松島町での様子や町の対応について、写真資料をもとに学習するよい機会となった。

○災害時の対応訓練やミニランタンづくりの活動では、非常時に役に立つ活動であったため、児童生徒には有効な活動であった。

【参加児童の様子から】

○各プログラムにいきいきと取り組む姿や真剣な表情が見られた。感想にもあるとおり、実際に1泊の避難生活型の防災キャンプを行うことで、参加者の防災意識の向上が見受けられたことが、最大の成果といえる。

(2) 事業運営上の課題・留意点

【松島防災キャンプ事業の継続について】

●今年度は国から予算をいただく中、県の委託事業として開催した。今後は、この組織を活かして、町独自の事業として予算化して実施できるようにしていきたい。

【企画運営委員会より】

●実際に防災キャンプを行って、体験型のプログラムが多かった。(教えることはたくさんあったが、子どもたちが考える活動が少なかった)次年度は、その場で考えて取り組むようなプログラムで実施できるとよい。(課題→体験→学び)また、学んだことを親や地域に広められるようなプログラムを考える必要がある。

(3) その他

【参加者の感想】

・やっぱり地震という自然災害はとてもおそろしいことなんだと改めて分かりました。地震と津波は人の命をうばい、家をこわし、島の形や町の風景などをすぐにこわしてしまふ。こういう自然災害はいつくるかわからないので、今回のキャンプに参加してよかったと思います。(小学6年:男子)

・この防災キャンプで、これから災害があったらどう対応したらよいかということと、当時あったことなどたくさん学ぶことができました。楽しく、自分たちで体験できたこと、聞いたことを生活に生かせるようにしたいです。(小学6年:女子)

・動けない人を移動する方法や心臓マッサージ、AEDのやり方も学んでとてもよい活動になりました。講話で震災の時の知らない松島の様子や避難所の様子がよく分かった。もし、災害が起こった時に役立つことをたくさん学ぶことができよかった。家族や友達に分かったことを教えて役立てたい。」

(小学6年:女子)

【実践3・七ヶ浜町】

9月13日(土)

12:00 受付

12:15 はじめのつどい～仲間づくりプログラム

14:00 テント設営～たき火

16:00 夕食作り、夕食

19:30 空き缶で生活用品工作

20:30 たき火、簡単非常食作り、1日のふりかえり

21:30 就寝準備

22:00 就寝

9月14日(日)

6:00 起床、身支度、テント内整理

6:30 ノルディックウォーキング

7:00 朝食作り、空き缶炊飯

9:30 テント撤収

11:00 わかれのつどい



テント設営



たき火体験



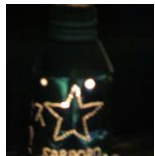
サバ飯パスタ



節約工夫



生活用品工作



空き缶ランタン

(1) 普及啓発の実施概要

①防災キャンプ実施前

- ・町内小学校児童へ募集チラシの配布 ・町広報に事業内容の掲載
- ・公民館事業の参加者へ募集チラシの送付

②防災キャンプ実施後

- ・公民館掲示板に写真を掲示 ・防災キャンプ参加者へ「体験のきろく」を送付

(2) 成果と課題

(1) 事業成果

- ライフラインが断たれた場合、必要最小限のものは何かを参加者が考えるきっかけになった。
- 空き缶炊飯に多くの参加者が苦勞していたが、1泊2日のキャンプの活動がすべてうまくいくことより、苦勞の結果うまくいかなかった経験は参加者にとって大きな意味があったのではないかと。
- 2家族で1台のたき火台を使用したことで保護者の役割が減り、子どもたちが中心になって活動できた。保護者に「子どもに体験させよう」という雰囲気生まれた。

(2) 事業運営上の課題・留意点

- スタッフとしてジュニアリーダーや大学生ボランティアが参加していたが、役割が明確でなかった。打ち合わせを十分にしておき、活躍の場を与えるとより活動の効果が得られた。
- 学校の防災主任や参加児童の担任の先生に今回のキャンプを見てもらう声掛けをするとよかった。避難訓練や集団行動とは違った防災教育を提案できるとともに、普段学校では見られない子どもたちの姿が見られる良い機会だった。

(3) その他

- 参加者には後日「体験のきろく」を送付した。内容はそれぞれの活動ごとに参加者が書いた感想を抜粋したもの、活動ごとの写真、空き缶工作や当日、時間の都合で実施できなかったロープワークに関する資料などで、キャンプを家族の思い出として忘れられないものにする、キャンプ中の活動をこれからの生活でも活用、応用するときの補助資料となることをねらいとして作成した。

4. 普及啓発の実施概要

- 各防災キャンプの開催について、メディア(新聞、県HP、県政記者クラブへの記事投げ込み)を通じて周知。
 - 「体験的に学ぶ防災教育推進フォーラム」を平成27年1月23日(金)に実施。基調講演「防災教育で災害に強い地域をつくる」。講師は東北大学災害科学国際研究所の佐藤 健氏。
 - ・災害に強い地域とは
 - ・地域に根ざした防災教育の有効性と発展性・子どもぼうさいキャンプ の取組
 - ・持続可能な地域づくりへのヒント
- 後半は、「多様な主体と連携した体験的な防災教育」というテーマで防災キャンプの実践発表及び意見交換。
- フォーラム終了後、フォーラムの様子を加えた報告書を作成し、本課HPを通じて成果等を周知する。

5. 成果と課題

(1) 事業成果

- どのキャンプも周到的な準備と体調管理をはじめとした安全管理に気を配っていただいたので、全て無事に事業を終えることができた。
- ライフラインが断たれた中で、「ある」ものでなにができるかを考えるきっかけになった。
- 日常生活とは違った不便さがある中で、参加者同士が助け合う場面や試行錯誤をしてみる体験を提供することができた。このことによって、「助け合う」「分け合う」「思いやる」といった他者を意識した行動が引き出され、様々な活動場面で人と人が触れ合う場面が生まれた。

(2) 事業運営上の課題・留意点

- 今後、学校教育で行う防災教育とのつながりや発展性を意識した取組になるようにプログラム開発するとともに、防災教育が地域づくり(復興教育)につながるような取組に発展させたい。
- 「防災」をテーマにすることにより地域の多様な主体との関わりが生まれたので、以降も継続的な取組とすることで地域コミュニティ及び地域防災の強化につながる取組にしていきたい。

(3) その他

- 「工夫すること」の楽しさやおもしろさの要素をプログラムの中に盛り込むことによって、子どもたちは興味を持続させて取り組めるようになると思う。
- 非常時における自助力(判断力、行動力)をいかに養うかとの視点から、どこに、どう避難するかというプログラムの実施も効果的であると考えます。また、避難所生活体験という視点から、発達段階によっては、自分たちで生活時間をプログラムしていくような活動も取り組んでみる価値があると感じる。

6. 団体プロフィール

【気仙沼市】

気仙沼市は宮城県の北東端に位置し、東は太平洋に面し、湾内は大島を抱いて風波をさえぎり、リアス式海岸の天然の良港を形成している。北部及び西部は、北上山地を背後に岩手県と接する丘陵地帯にあり、気候は、三陸沖の寒流暖流の影響を受けて、寒冷地としては比較的温暖である。

主産業は水産業であり、親潮と黒潮の交わる三陸沖漁場を控えて、漁船漁業・沿岸漁業及び水産加工業が発達し、全国有数の『生産高』を誇っているとともに、三陸復興国立公園及び海域公園、並びに南三陸金華山国定公園の指定を受け、観光のまちとして発展してきた。

【気仙沼市の防災教育】

これからの気仙沼市の復興を担う子ども達を育成するためには、学校教育における防災教育の充実を図るとともに大震災の記憶が薄れることなく後世に伝える仕組みを築き、子ども達の自然災害に対する畏敬の念を育てる必要がある。そのため、各学校に防災主任を配置し、教職員の防災、減災意識を更に高めるため、防災主幹教諭と連携し、計画的に研修を実施している。また、気仙沼市教育研究員制度を活用し、防災マニュアルや防災教育プログラム、防災マップの開発・作成を行っている。

【松島町】

松島町は、宮城郡の東端に位置し、東は東松島市、西は宮城郡利府町・黒川郡大郷町、南は松島湾、北は大崎市・遠田郡美里町に隣接し、政令指定都市仙台市と石巻市のほぼ中間にある。鉄道は、町域を東西に横断する仙石線、南北に縦断する東北本線がある。道路は国道45号・同346号、主要地方道仙台松島線や三陸自動車道などがあり、交通の要所となっている。町土の50%は松島丘陵の森林で、眺望・景観のよさで万葉の昔から景勝地として知られ、また、特別名勝松島として日本三景の一つに数えられ、東北観光の拠点になっている。

(面積:54.04km² 人口:14,946人 平成26年11月末現在)

【松島町の防災教育】

「まつしま防災学」

子どもたちに、防災・減災の基礎知識を習得させる目的から、町内の小・中学校が共同して9年間の一貫した防災教育カリキュラムを作成し、実践している。

○小学校

- ・目標 『災害から命を守る』
- ・低学年 「自分を守る」
- ・中学年 「自分や家族を守る」
- ・高学年 「自分や家族を守り、周りの人の役に立つ」

○中学校

- ・目標～「災害の危険から自分の命を守り抜くため、主体的に行動する態度を育成する防災教育の推進～
- ・第1学年テーマ「自助」
- ・第2学年テーマ「共助」
- ・第3学年テーマ「公助」

○生涯学習・協働教育において、「松島防災キャンプ」を実施していくことで、より一層、小・中学校の「まつしま防災学」と関連させ、体験的に学ぶ防災教育の推進を図っていきたい。

【七ヶ浜町】

七ヶ浜町は、仙台市中心部から東に約20km、南は太平洋に面し、北と東は松島湾と三方を海に囲まれ、西は仙台市、多賀城市、塩竈市と隣接し、松島湾の南西に突き出した半島状の形態をしている。

町土の面積は13.27km²で、町の中央部がなだらかな丘陵地帯となっており、海岸部に向けて放射状に傾斜し、起伏の変化に富んだ地形である。日本三景松島の一部をなし、町内の東部が県立自然公園松島の指定を受け、海岸線に沿って特別名勝「松島」の指定を受けるなど、自然環境や景観に恵まれた地域であり、古くから海と密接に関わり、生活が営まれてきた地域でもあり、海岸部には縄文文化を今に伝える貝塚をはじめとした遺跡が多く残され、東北一の規模を誇る大木囲貝塚は国指定史跡に指定されている。

【七ヶ浜町の防災教育】

七ヶ浜町立夕見小学校「防災リーダー教室」

6年生が対象。最高学年として下級生が、または家族がケガなどをした場合、どのような行動をとればよいかを体験をしながら学ぶ授業。119番通報体験、心肺蘇生訓練、濃煙歩行体験、徒手搬送訓練をクラス毎にローテーションをしながら授業時間2時間で体験する。体験を修了した児童には、町防災対策室から「防災リーダー認定証」が授与される。